

## 多田雅史

---

**件名:** 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol. 1 7 1】  
**添付ファイル:** 医療過誤訴訟の8割は訴えた「患者側が負ける」理由 いまだにカルテ提出を拒む病院も \_ PRESIDENT Online (プレジデントオンライン) .pdf; コカインの押収量 過去最多に | NHK 東海のニュース.pdf; 沢尻エリカ被告に判決【神保哲生×宮台真司×松本俊彦】薬物事件をめぐる刑罰と報道の問題点 - 記事詳細 | Infoseekニュース.pdf; 松本俊彦意見書の要旨.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 400 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

(1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HP の「お問合せ」をご紹介ください。

<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>

(2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。

(3)情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS 拡散」してください。

### 【目次】

1. 医療過誤訴訟の 8 割は訴えた「患者側が負ける」理由 (添付)
2. 睡眠薬に頼る高齢者 里見清一さんは「熟睡の心地よさ」を断てと
3. 情報提供があった YouTube
4. コカインの押収量 過去最多に (添付)
5. 沢尻エリカ被告に判決【神保哲生×宮台真司×松本俊彦】薬物事件をめぐる刑罰と報道の問題点 (添付)
6. 医薬卸のオピオイド訴訟和解案、米 21 州が退ける
7. 『パトリオット・デイ』ピーター・バーグ監督、麻薬性鎮痛薬の蔓延を描く実話ドラマ手がける - 米国「オピオイド危機」背景と原因を探る

### 【記事】

1. 医療過誤訴訟の 8 割は訴えた「患者側が負ける」理由 (添付)

<https://president.jp/articles/-/32326>

以下引用

『医療訴訟で原告、つまり患者側が勝訴する割合は、わずか 18.5% (※) ——そんな厳しい現実をご存じだろうか。「患者が病院に裁判でほとんど勝てない」のには、実はとある理由がある。』

『一般的な民事訴訟であれば、原告側が勝訴する割合は、85%ほど。勝率が高い理由は、そもそも原告側は相手の責任を問えるだけの証拠、根拠がある状態で訴訟を起こすからです。つまり、医療訴訟で患者が勝てないのは「証拠が足りない」ケースが多いことが大きな理由の 1 つになっています。』

2. 睡眠薬に頼る高齢者 里見清一さんは「熟睡の心地よさ」を断てと

<https://www.j-cast.com/trend/2020/02/12379304.html?p=all>

以下引用

『週刊新潮 (2 月 6 日号) の「医の中の蛙」で、日赤医療センターの里見清一さんが高齢者の睡眠薬依存と、それが命を縮めるリスクに警鐘を鳴らしている。里見さんによると、睡眠薬や抗不安剤に使われるベンゾジアゼピン系の薬剤は、高齢者には効きすぎ、ふらつきや転倒を招きやすい。怖いのは転んでの骨

折、中でも折りやすいのが大腿骨頸部だという。スキーで骨折した若者とは違う「地獄」が待つそうだ。』

### 3. 情報提供があった YouTube

各自で観られたい。

(1) リサ・リンの「これが人生」ー ベンゾクライシス (前半)

<https://www.youtube.com/watch?v=8UNYMqaKuvI&feature=youtu.be>

(2) 視覚を使えない障害「眼球使用困難症」～眼瞼けいれんをめぐる裁判～

<https://www.youtube.com/watch?v=wmni6EQS4Q&feature=youtu.be>

### 4. コカインの押収量 過去最多に (添付)

<https://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20200221/3000009111.html>

以下引用

『名古屋税関が去年1年間に押収した不正薬物のうち、コカインが、180キロ近くと、過去最多となったことがわかりました。』

NCNP 松本俊彦医師が提唱する「違法薬物依存患者の治療のため、非刑罰化」すれば、大麻、MDMA から始まり、やがてコカイン・ヘロインへ移行して、最終的には、死しかない。しかも、日本が違法薬物大国に陥るのは必定である。このような悪質な提案をする薬物依存研究者は辞めさせるべきである。しかし、松本俊彦は、「ベンゾジアゼピンは薬物依存にならず、医学的治療の対象ではない」と裁判所に意見書を提出している。(松本意見書の要旨：添付)

世界の違法薬物販売者から「日本は最後の大物」と狙われている。ここで、違法薬物を自由化すれば(松本俊彦の意見)、日本は滅びるだろう。

### 5. 沢尻エリカ被告に判決【神保哲生×宮台真司×松本俊彦】薬物事件をめぐる刑罰と報道の問題点 (添付)

[https://www.excite.co.jp/news/article/Cyzo\\_230782/](https://www.excite.co.jp/news/article/Cyzo_230782/)

少々長いですが、添付ファイルを読みたい。そうすれば NCNP 松本俊彦が「如何にいかれた思想の持主か」がわかる。彼の言い分は「違法薬物は“絶対ダメ”の教育で9割が手を出さなくなるのに、残り1割が心に傷がある人物が手を出すので、それらを救済するために非刑罰化して、“絶対ダメ”の教育を止めよ」と言っているのである。しかしそんなことをすれば、手を出さないとっていた9割の人物が違法薬物に手を出すので、より多くの被害者を生み出すことになるのは自明である。したがって、松本の意見は亡国論であり、間違いであることは明らかである。また、実際に手を出した1割が果たして心に傷がある人物というのも怪しい。なぜなら、最近の芸能人の違法薬物実態をみれば、彼らが心の傷から違法薬物を使用し始めたという事実はあり得ないだろう。しかも、「身体依存」は影響が小さいとして、問題は「精神依存」としている。一方、ベンゾジアゼピン薬害の中心は「身体依存でありそれによる離脱症状の苦しき」にある。加えて、ベンゾジアゼピンは医療者が処方したもので処方薬依存であり、本来、依存症となった患者にまったく非はなく「医原性疾患」である。このような暴論を、喜んで取り上げている“月刊サイゾー”は愚かで馬鹿である。

また、貧困者救済で欧米では8-9%しか反対しないが、日本では38%が反対するとしている。その数値の真偽は不明であるが、日本がそういう特性がある国だからこそ、違法薬物が市民レベルまで入り込んでいないのである。したがって、国民性が異なるオランダや他の国の違法薬物大国が採った薬物寛容論を日本で採用しても効果は得られないばかりか、逆に、違法薬物が公式に容認されたとして、爆発的に国民に普及して取り返しがつかなくなることは必定である。当会は、今後も、NCNP 松本市彦の解任を求めて強力に活動する。

### 6. 医薬卸のオピオイド訴訟和解案、米21州が退ける

<https://jp.wsj.com/articles/SB11367435475918324839204586203712416400224>

以下引用

『米医薬品業界がオピオイド（医療用麻薬）系処方鎮痛剤の乱用を助長したとされる問題で、21州とコロンビア特別区および米自治領プエルトリコの司法長官らは、卸売り大手3社が提示した180億ドル（約2兆円）規模の和解案を退けた。3社の法律事務所に今週送付された書簡で明らかになった。』

7. 『パトリオット・デイ』ピーター・バーグ監督、麻薬性鎮痛薬の蔓延を描く実話ドラマ手がける — 米国「オピオイド危機」背景と原因を探る

<https://theriver.jp/painkiller-peter-berg/>

以下引用

『米国において、オピオイドは強い依存性をもつにもかかわらず、病院にて処方される治療薬。鎮痛効果が失われるたびに処方量が増え、使用を中断すると不眠をはじめとする離脱症状が生じるなどの依存性が判明している。現在では、患者数や過剰摂取による死者の増加も問題視され、重大な社会問題として懸念されている。Netflix 配信となる本作は、実際に起きている悲劇の裏側を説得力をもって描く作品になるという。』

そして、同様の問題が、日本ではベンゾジアゼピンで生じているのである。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史